



挨拶する葉梨会長

平成二十六年公益財団法人茨城県消防協会理事会及び評議員会が、五月二十一日(水)に茨城県総合福祉会館において開催されました。会議は、まず、理事会と評議員会で審議いただく議案が同じものと、個別に審議いただくものがあり、同時並行的に進行させる必要があることから、同時開催としたことを説明した後、会議定足数の確認(理事数三十二名のところ出席者三十名、評議員数三十六名のところ出席者三十二名で何れも過半数を超え、会議が成立)が行われ、その後、葉梨会長から主催者の挨拶、続いて来賓を代表し県生活環境部防災・危機管

公益財団法人茨城県消防協会役員名簿(H26辞任者補充後)

(任期：平成25年度～26年度)

顧問 大塚 光 会長 葉梨 衛 専務理事 遠藤 延男

平成26年5月21日現在(建制順)

Table with columns: 支部名, 副会長, 理事数, 理事(所属), 備考, 理事定数. It lists members across various branches like 県北, 県中央, 鹿行, etc.

注1 理事数は、平成18年度の総会で決定された消防団長から20名、消防長から4名とし、その他団長歴10年以上の者を理事(10年理事)とした。なお、副会長は理事数の内数である。注2 副会長・理事については、当協会の「役員等の選任に関する基準について」に基づき各支部及び消防団長より推薦のあった者とした。注3 監事は、各支部建制順に持ち回りとし、今期は県北支部、県中央支部及び消防団長より推薦のあった者とした。



4・5月号

発行所 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内 公益財団法人茨城県消防協会 編集発行人 葉梨 衛 印刷所 富士オフセット印刷(株) 1部 15円 (購読料は年会費に含まれています)

第二回理事会・評議員会開催

理局の田中理事兼防災・危機管理局長から挨拶を頂きました。ご臨席頂いたご来賓は次の方々です。 県理事兼防災危機管理局長 田中 豊明様 関 武志様

- ・県立消防学校長 齋藤 亨様
続いて議事は、葉梨会長が議長となり、評議員会の議長(阿見町消防長 川村忠男様)及び評議員会の議事録署名人(那珂市消防団長 大森利光様/茨城町消防本部消防長 木村好文様)を選出(理事会は定款の規定により会長及び監事)し、議案が審議され、それぞれ原案どおり承認・可決されました。(理事会と評議員会では議事案件が一部相違しますので、評議員会議案を掲載します。
○議案第一号 平成二十五年事業報告
○議案第二号 平成二十五年普通会計決算
○議案第三号 役員及び評議員の選任
○協議事項 平成二十六年の主な行事予定



入校式に臨む初任科生

今年度の消防職員初任教育は昨年度に引き続き二期制となり、まず前期の第九十七期入校式が、四月九日(水)午前十時から県立消防学校において、県内二十一消防本部から総勢百二十四名の学生を迎え挙行されました。式典は、入校生紹介、学生宣誓に続き、式辞(齋藤学校長)、知事告辞(関県消防安全課長)、続いて県消防協会会長の来賓祝辞(遠藤専務理事兼事務局長)がありました。
今後、消防学校において、心身の鍛錬と消防職員として必要な知識・技能を習得し、半年後には、新時代にふさわしい消防の担い手として巣立っていくことを祈念します。

県立消防学校 初任科入校式

平成二十六年 春の叙勲・褒章

平成二十六年春の叙勲・褒章受章者が四月二十九日に総務省から発令されました。

本県からは、春の叙勲が十一名、第二十二回危険業務従事者叙勲が十五名、藍綬褒章が一名、合計二十七名の皆様を受章の榮に浴されました。

勲記・勲章は、五月九日(金)、県庁において橋本知事から伝達されました。

国(総務省消防庁)の伝達式は、春の叙勲が五月十四日(ニッショーホール)、危険業務従事者叙勲が五月十二日(日比谷公会堂)、春の褒章が五月十六日(スクワール麹町)においてそれぞれ実施され、同日の午後には、皇居拜謁(豊明殿)も執り行われました。

受章者の皆様の永年にわたるご尽力とご功績に対し、心からの感謝と敬意を表します。

以下、順不同にて受章者の略歴並びに国の伝達式の様子をご紹介します。

※()は発令日現在の年齢

春の叙勲

瑞宝双光章

○海野 藤男(七十一)

元 那珂市消防団 団長
消防歴 五十一年六月

那珂市在住

○上久保 修(六十八)

元 常陸太田市消防団 副団長
消防歴 四十六年二月半
常陸太田市在住

○富田 宏司(七十二)

元 筑西市消防団 団長
消防歴 四十五年

筑西市在住

○細金 秀隆(七十三)

元 高萩市消防団 団長
消防歴 五十三年〇月半

高萩市在住

瑞宝単光章

○齊藤 直春(六十七)

元 五霞町消防団 団長
消防歴 三十九年二月

五霞町在住

○篠崎 卓(六十六)

元 古河市消防団 副団長



春の叙勲伝達式(ニッショーホール)

消防歴 三十四年九月
古河市在住

○鈴木 功(七十)

元 坂東市岩井消防団 団長
消防歴 三十六年一月半

坂東市在住

○鈴木 治夫(六十五)

元 つくば市消防団 副団長
消防歴 三十四年十一月

つくば市在住

○須田 正行(七十一)

元 常陸太田市消防団 副団長
消防歴 三十八年

常陸太田市在住

○本多 幸一郎(七十九)

元 美野里町消防団 副団長
消防歴 三十七年四月半

小美玉市在住

○宮本 一夫(七十二)

元 日立市消防団 副団長
消防歴 四十七年十一月半

日立市在住

第二十二回危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章

○池田 二三夫(六十五)

元 土浦市 消防司令長
消防歴 四十二年

土浦市在住

○石塚 憲夫(六十六)

元 笠間市 消防司令長
消防歴 四十一年十月

桜川市在住

○笠原 誠(七十二)

元 常総広域 消防正監
消防歴 四十一年一月



危険業務従事者叙勲伝達式(日比谷公会堂)

○川原場 正行(六十五)

元 かずみがうら市 消防司令長
消防歴 四十一年五月

常総市在住

○高木 信夫(六十五)

元 石岡市 消防監
消防歴 四十二年

石岡市在住

○永井 康一(七十四)

元 稲敷広域 消防司令長
消防歴 三十六年六月

龍ヶ崎市在住

○中村 清文(六十五)

元 茨城町 消防監
消防歴 四十一年八月

茨城町在住

○長谷川 修仁(六十五)

元 茨城町 消防監
消防歴 三十八年

茨城町在住

○間井田 修(六十五)

元 筑西広域 消防監
消防歴 四十二年

筑西広域

結城市在住
○村上 征一(七十一)

元 筑西広域 消防正監
消防歴 四十一年一月

筑西市在住
○茂木 英雄(七十)

元 鹿行広域 消防正監
消防歴 四十二年

潮来市在住
○谷田部 清水(六十六)

元 笠間市 消防司令長
消防歴 四十一年十月

笠間市在住

瑞宝準光章

○大槻 宏(七十八)

元 土浦市 消防司令長
消防歴 三十五年十月

土浦市在住
○田仲 安夫(六十五)

元 阿見町 消防司令長

消防歴 四十一年
常総市在住

○八代 武次(六十七)

元 西南広域 消防司令長
消防歴 四十二年
栃木県在住

藍綬褒章

○皆川 光吉(六十一)

現 桜川市消防団 団長
消防歴 三十六年一月
桜川市在住



皆川団長ご夫妻

**日本消防協会主催・消防団幹部候補中央特別研修に
鉾田市、北茨城市及び稲敷市の消防団員が参加**

日本消防協会主催による第十三回消防団幹部候補中央特別研修が、次の日程で実施されました。

○男性消防団員の部
平成二十六年二月五日、

七日(二泊三日)

(参加者)

鉾田市消防団

分団長 江沼 順一

分団長 菅谷 秀明

班 長 長峯 裕

○女性消防団員の部
平成二十六年二月十二日、

十四日(二泊三日)

(参加者)

北茨城市消防団

分団長 福田 良子

稲敷市消防団

団 員 関谷 美子

今回の研修に本県から参加された方々を代表して、男性消防団員の部の江沼順一さんと女性消防団員の部の福田良子さんからの寄稿文をご紹介します。

**「第十三回消防団幹部候補
中央特別研修」に参加して**

鉾田市消防団 江沼 順一

平成二十六年二月五日から二月七日までの三日間、日本消防会館にて、消防団幹部候補中央特別研修に参加させていただきました。貴重な体験ができました。

全国から約百四十名もの参加者がいて、会場に到着した時は圧倒されそうになりました。参加者の年齢層も幅広く、自分は参加者の中では平均よりも若干若いぐらいでした。座席は研修参加者ごとに決められていましたが、参加者が多かったため最初は自分の座席を見つけるのも大変でした。

三日間研修をした中で、一番印象に残っているのが、班ごとに分かれて実施した課題討議です。参加者を一班から六班までに分け、それぞれに課題研究テーマが与えられました。私は総勢二十四名からなる二班に所属し、「若年層の団員確保対策について」というテーマについて班員で討議を行いました。班ごとにまとめて発表するわけですが、全国から集まった参加者からの意見はたくさんありましたが、団員確保が困難であるという問題意識は共通していると感じました。私の分団でも年々新入団員を確保するのが容易ではなくなってきたので、そういった共通の問題を抱えている方々と意見を交わし、「この問題は自分の地域だけではなく、全国に広がっている」ということを実感しました。

また、討議の当初から活発な意見が出されたわけではなく、団員確保の難しさや苦労している話、実際にあった体験談

などを班のみんなと話ししていくうちに、班の中で次第と一体感が生まれ、その結果、次々と意見が出てくるようになりました。

班員から出された意見をまとめ、二班として発表した内容は、現状の問題点として、地方部は特にそもそも若手を含めて人口減少が激しいという根本的な問題。また、消防団のイメージが、お酒を強制的に飲まされる。付き合いが大変である。地域の協力もなかなか得られず割に合わない上に、消防活動は危険である。などなど、一部誤解されている部分や、イメージと実際は違う点も多々あるのに、それらが原因で入団したくないと思われてしまうと考えられます。

そして、苦勞の末にやっと新入団員が確保できても、入団してからの問題も数多くあります。縦社会の組織に馴染めない。出動が多くて負担が大きいので大変である。仕事と消防活動の両立が困難。結婚して奥さんから反対されたり、家族の理解が得られない。などの理由で、退団してしまう団員もいるのが現状です。そこで、班の中でそれらの問題点への対策を考えてみました。

まずは、消防団の存在や活動内容などを広く知ってもらう事。具体的には、女性(婦人)防火クラブ等の活用や、消防団員と家族を含めた交流会などを実施して、消防団を身近に感じてもらう。地元のお祭りや、青年団、スポーツクラブ等の若手が集まる団体に関わる消防団員による広報活動。少年消防クラブや、学生のボランティア活動の一環として、体験入団をしてもらい、肌で消防団を感じてもらう。あとは、消防団に入団すると、こんな

特典や恩恵があるというものを考えてみる。例えば、消防団員及びその家族は、買い物をする際に消防団員特別割引のような消防団優遇店舗などを企画する。店舗側も、集客率がアップすればメリットがあり、店舗や関連企業で勤務している団員にとっては、職場から消防活動の理解を得やすいと思う。これはほんの一例ですが、みんなで知恵を絞れば、他にも良いアイデアがたくさん出てくるはずだ。

考えたアイデアが全部実行できないかもしれない。また、こうすればこうなる、というような答えのあるものでもありません。ただ、何か考えないとこの厳しい現状は変わらないと思います。みんなで考え、生まれたアイデアを広く発信していく。このようにまず、何らかのアクションを起こして行く事が団員確保への第一歩だと思えます。



研修に参加した
鉾田市消防団の江沼さん

「第十三回消防団幹部候補
中央特別研修」に参加して

北茨城市消防団 福田 良子

昨年、消防団百二十年自治体消防六十五周年の記念大会に参加させて頂

き、改めて地域防災の要として、又、重要性を痛感し、その思いで日々の活動に取り組んでおります。

そのような中、平成二十六年二月十二日から十四日まで第十三回消防団幹部候補中央特別研修会に参加させて頂きました。

全国各地から嬉嬉として、女性消防団員が参加し、初日は秋本日本消防協会々長のこれからの日本消防と題して、講話があり、東日本大震災を通し、初動体制も重要だが避難所での後方支援が今後重要になって来る等、女性消防団員の役割と使命について纏々ありました。

東京防災救急協会講習指導担当部長からは、女性消防団員の役割、地域のリーダーについてお話しがあり、特に地域の人の心をつかむことについては現場に入つて、特に高齢者の方々の顔の見える活動が重要であると痛感致しました。

二日目はリスコムユニケータの長谷川祐子氏による、アメリカ発火災教育と日本との違いと題して、知識の詰め込みではなく、日頃からの訓練がいざという時に正しい行動がとれると言う点では釜石市の防災教育を思い出しました。

その後、各グループによる課題討議があり、私は女性消防団員による新たな消防団活動の展開について意見交換をし、各地の活動等の実態を知ることが出来、今後の活動の励みとなり、各人が更に頑張ることを約束しました。

最終日、東京は大雪にみまわれ午前中で止むなく閉講となりましたが、最後に東京都赤羽消防団 小澤浩子副団長の話し方講座があり、対話する上で言葉が持つ力、消防団員として発する言葉の責任等を学びました。

一度口から出た言葉は消火出来ないように、相手の立場に立った振る舞いに努めて参りたいと思います。

今回の研修を通し改めてソフト面における活動が大事であると共に、その一翼を担っていることへの責任を再確認致しました。

今後の活動への原動力として参ります。ありがとうございます。



研修に参加した
北茨城市消防団の福田さん

編集後記

平成二十六年度の事業がスタートして早二ヶ月が経過しました。

今年度も、消防救助技術大会や消防団長研修会などを皮切りに各種事業が予定されており、消防職・団員の皆様におかれましては、公私とも何かとお忙しい日々を過ごされているとは存じますが、積極的に事業への参加をお願いいたします。

発行にあたり、消防団幹部研修について、ご寄稿いただきました鉾田市消防団江沼さん、北茨城市消防団福田さんにお礼申し上げます。

いつものことですが、「茨城消防」では消防に関する行事や珍事など、記事の提供をお待ちしております。(き)

全国シェアNo.1の消防車メーカー
(株)モリタの各種消防自動車
常に最新技術を反映して様々な災害現場で活躍する消防車を制作します。

その他の取扱品目
小型動力消防ポンプ・消防用ホース
救助資機材・潜水機材・消防用被服
防災用品・消防用品・消防資機材

茨城県代理店
有限会社 鈴 機

〒315-0014 石岡市国府5-2-25
TEL:0299-22-3010 FAX:0299-22-5846

Panasonic
自動火災報知設備
非常電源設備
自家発電設備
CVCF設備
FAX、パソコン

パナソニック株式会社 特機商品代理店
株式会社入江電機工業所

本 社 〒310-0031 水戸市大工町2丁目3番23号
TEL.029-224-4614(代表)
FAX.029-224-4613
千波営業所 〒310-0851 水戸市千波町海道付2027番地
TEL.029-241-3636(代表)
FAX.029-244-0540
土浦営業所 〒300-0061 土浦市並木1丁目2番20号
TEL.029-821-8498(代表)
FAX.029-822-6575

トーハツ 小型消防ポンプ
充実のVシリーズ

V75ESからV10Fまで
豊富な機種でお客様のご要望にお応えいたします。

消防ポンプ自動車 消防用ホース
消火器 消防服装
消防資機材用品一式

茨城県代理店
トキワ産業株式会社
水戸市東原3-6-24
TEL.029(224)3324(代) FAX.029(224)3360